

④ 現行計画の修正

1 審議会指摘事項と原案修正反映の対応整理

(1)令和7年度の第1回審議会（R7.7.24開催）でのご意見・ご質問等に対して、原案への修正反映の概要を以下に整理する。

（赤字：追加した箇所 青字：既存計画で掲載済）

審議会でのご意見・ご指摘	計画案への修正反映 等
ア. 自然共生サイトの設置を目指せるとよい。	【原案への修正反映】（p 52：①自然環境の保全）「～民間により良好に保全されている区域等は、自然共生サイトとして認定を促進…」の文面を追加。
イ. ビオトープの取組は全国的に広く認知されている取組であり、何らかの記載は残した方がよいのではないか。	【原案への修正反映】（p 52：①自然環境の保全）「～敷地内の緑地を活用したビオトープなど…」の文面を追加。
ウ. 吾羽丘陵では、竹林の整理等が必要である。風致保安林についても、眺望等を考慮した適切な維持管理の取組が望まれる。	【原案への修正反映】（p 52：①自然環境の保全）「吾羽丘陵では、放置竹林の広葉樹林への転換等により、多様な生物の生息・生育環境づくり…」の文面を追加。
エ. コミュニティガーデン事業について、市助成が拡充されるとよい。	【原案への修正反映】（p 63：指標「地域コミュニティガーデン事業の新規登録数（類型）」）R16目標値10件は変更なし。 【審議会での応答】今年1～2箇所施工し、その実績結果を見て、次年度以降の増強を検討していく。
オ. 保存樹木に関する指標がなくなることだが、保存樹木の取組自体がなくなるのか。	【原案への修正反映】（p 53：②地域のシンボルとなっている緑の保全）「～所有者の意向を踏まえつつ、保存樹木・樹林として指定する…」の文面は削除。 【審議会での応答】所有者の意向によるところが大きく、行政でコントロールできない面が大きいことから、施策として積極的に展開することが困難であり、指標としても設定を見送る。
カ. 各家庭での緑化推進について、虫がつきにくい樹木の情報提供等があるとよい。	【原案への修正反映】（p 62：13）緑の情報提供の推進）「～緑の役割や機能、緑のまちづくりに係わる支援等の情報提供を行う…」の文面に整理。 ※特に虫がつきにくい等の具体的な言及は行わないが、情報提供全般に関する記載として再整理。
キ. コンパクトシティの取組の一環として、吾羽丘陵を利用した健康づくりや交流が進むとよい。	【原案への修正反映】（p 58：8）歩いて楽しい緑のネットワークの形成）「吾羽丘陵フットパスを適切に維持・管理することで、吾羽丘陵フットパス月いちウォーク等の自然環境や緑への親しみを醸成させる活動の継続実施…」の文面を追加。

審議会でのご意見・ご指摘	計画案への修正反映 等
ク. 外来生物に関する指標は設定しないのか。何も対応しないのか。	【原案への修正反映】（p 52：②外来生物への対応）「～外来種等の持ち込みの抑制や駆除に取り組むとともに…」の文面内容は変更なし。 【審議会での回答】外来種に対する取組を行わないということではないので、方針文面の内容は変更なし。
ケ. 街路樹に関しては、所管課（道路河川管理課）と連携を密にし、共同体制で取組を進めてもらいたい。	【原案への修正反映】（p 67：（1）府内体制の強化）「～緑のまちづくりに関連する政策分野を含めた総合的な施策展開が可能となるよう、関係部署との連携を強化…」の文面を記載。※従前を継承する記載内容 【審議会での回答】街路樹整備に関する情報の共有など、引き続き連携を図りながら取組を進めていく。
コ. 新しく追加された指標のハンギングバスケット講習会参加者数については、人数を増やすだけではなく、子どもたちも参加しやすいように取り組んでほしい。	【原案への修正反映】（p 61：①緑を育てる推進員による緑の教育の推進）「地域の子どもたちが、緑を育てる推進員から花木の育て方を実践的に学べる環境づくり…」の文面を追加。 ※ハンギングバスケット講習会に限らずに、子どもたちの緑のまちづくりに関する学び・実践の機会の充実に関する文面を追加。
サ. ハンギングバスケットの指標に関しては、箇所数だけではなく、路線延長などの設定があってもよいかもしれない。 ハンギングバスケットの設置数を増やせないか。	【原案への修正反映】（p 59：指標「ハンギングバスケット設置箇所数」）設置箇所数とする指標に変更なし。 ※【考え方として】良好な街並み形成に資するよう効果的に展開するという観点からすれば、延長を指標とするのはなじまない。 近年、防犯カメラの設置等によりハンギングバスケットの設置箇所が減少している中で同数を保っていることから、引き続き現状維持に努める。
シ. ほ場整備事業に関しては、里山田園環境の質の維持・向上の観点からも方針文面を盛り込んでもらえるとよい。	【原案への修正反映】（p 52：3）里山・田園環境の保全・活用）「農地のほ場整備事業に当たっては、地域の状況に応じ、農業生産性の向上と生態系への配慮を両立する多自然型の整備や、ホタルの生息地づくりなど農業・農村の多面的機能の発揮に向けた地域活動の支援…」の文面を追加。 ※緑の観点からのほ場整備の考え方や留意点等を方針文面として追加。指標設定については変更なし。